

1. 原稿の作成

1.1 フォーマット

文書作成ソフトウェア（Microsoft Word®等）などを用い、A4用紙に12ポイント、ダブルスペースで十分なマージンを取って記載する。フォントは、英文ではTimes、和文では明朝体を使用することを基準とする。ページ下部中央にページ番号を入れること。英文論文中には2バイト文字のような非英語フォントを使用しないこと。

1.2 構成

投稿論文は以下に示した（1）～（6）をこの順にそれぞれ改ページして取りそろえる。

- （1）論文の表紙，（2）要旨とキーワード，（3）本文，（4）引用文献，
- （5）表，（6）図

1.3 投稿論文の長さ

ノート、コミュニケーションについては、以下の方法によって頁数を概算し、規定内（3頁以内）に収まることを確認すること。

英文：（頁概数）＝ [(総単語数／7) + (図・表が占める行数) + 50] / 120

和文：（頁概数）＝ [(総文字数／25) + (図・表が占める行数) + 60] / 120

(図・表が占める行数)とは、刷り上がりを想定した時、それらが占有する片段の行数の総数である。煩雑な場合は、図・表一つあたり、15行として概算してもよい。

1.4 表紙

表紙には、論文題目、著者、所属、連絡先を記入する。

著者は、すべての著者のFull Name (First name Middle Name LAST NAME)を順に記載する。LAST NAMEは、すべて大文字で記載する。連絡先著者 (Corresponding Author) には、*印を末尾につける。所属が2カ所以上の時には、所属番号を、a, b, c, …の順に上付きで記載する。

(例) First name LAST NAME,^{a,*} First name LAST NAME,^b First name LAST NAME^c

所属はすべての著者について、研究の行われた機関名（できる限り省略しない公式名称）、所在地（住所、郵便番号、国名）を記載する。所属が2カ所以上の時は、著者に対応した所属記号を行頭に上付きで記載する。

連絡先は、著者のうち連絡先著者 (Corresponding author) についての連絡先を記載する。連絡先は、E-Mail アドレスが望ましいが、電話番号、Fax 番号も可とする。

1.5 要旨とキーワード

要旨は、英文論文、和文論文にかかわらず、英文で記述する。報文、技術報文、総合論文、総説の場合は、100-200 word、ノート、コミュニケーションの場合は、50-100 word を基準

とする。

キーワードは、英文論文、和文論文にかかわらず、英語語句4項目以内とする。

1.6 本文, 引用文献

1. Introduction (緒言), 2. Experimental (実験方法), 3. Results and discussion (結果および考察), 4. Conclusion(s) (結論) の順に記載する。ただし、論文構成によっては、これらの構成を省略・改編してもかまわない。これらの後に必要に応じ、Acknowledgement(s) (謝辞), References (参考文献) を記載する。引用文献および本文中の注は、該当する場所の右肩に通し番号で、1 または、2, 3, 4-6 のように示し、References (英文論文の場合) または、参考文献 (和文論文の場合) の大見出しを付けて番号順にまとめて示す。本文中の引用文献や注をつける語に句読点、コロン、セミコロン等が付く場合、これらの後ろに通し番号をつける (和文論文の場合は、これらの前につける)。

参考文献の表記は下記の例を参考とすること。文献の略記法は、Chemical Abstracts や ISI Journal Title Abbreviations 等を参照すること。著者について *et al.*, 雑誌について *ibid.* を用いない。本誌を引用する場合、誌名の表記は、1998 年以前の場合、*Denki Kagaku* (presently *Electrochemistry*), 1999 年以降の場合は、*Electrochemistry* とする。

和文論文の場合も、参考文献は英語で書くことを原則とする。

参考文献の表記例を以下に示す。

1. K. Ueno and M. Seo, *Denki Kagaku* (presently *Electrochemistry*), **66**, 713 (1998).
2. K. Matsumoto, A. Matsuoka, and K. Nakagawa, *Denki Kagaku* (presently *Electrochemistry*), **66**, 537 (1998). [in Japanese]
3. S. Abe, A. Fuchigami, and T. Nonaka, *Chem. Lett.*, **1984**, 1033.
4. L. R. Faulkner, *Chem. Eng. News*, **1984**, February 27, p.28.
5. R. W. Murray, *Acc. Chem. Res.*, **13**, 135 (1980) and references cited therein.
6. A. J. Bard and L. R. Faulkner, *Electrochemical Methods, Fundamentals and Applications*, John Wiley and Sons, New York, NY, p.214 (1980).
7. S. Trasatti, *Comprehensive Treatise of Electrochemistry* (Eds. J. O' M. Bockris, B. E. Conway, and Y. Yeager), Vol. 1, Plenum Press, New York, NY, p. 44 (1980).
8. K. Izutsu, *Denkyoku-hanno no Kiso* (Ed. T. Osa), Kyoritsu Shuppan, Tokyo, Chap. 2 (1973). [in Japanese]
9. K. M. Mess, Ph. D. Thesis, University of Leiden, Leiden, The Netherlands (1969).
10. H. F. Lockwood, U. S. Patent, 3759835 (1965); *Chem. Abstr.*, **73**, 46241q (1970).
11. Y. Masuda and I. Uchida, *55th Annual Meeting of the Electrochemical Society of Japan, Abstr.*, p.122 (1988). [in Japanese]
12. *Selected Values of Chemical Thermodynamic Properties, National Bureau of Standards Circular 500*, U. S. Government Printing Office, Washington, D. C. (1950).
13. L. Roe, AEC Report 66-170, Los Altos, CA, February (1964).
14. These compounds were analyzed by gas chromatography (column packing: Apiezon Grease L; temperature: 120°C).

15. J. Robinson, G. E. Thompson, and K. Shimizu, *Oxide Films on Metals and Alloys VII* (Eds. K. R. Hebert and G. E. Thompson), PV 94-25, p.1, The Electrochemical Society Proceedings Series, Pennington, NJ (1994).

1.7 表

表は、用紙 1 ページに一つずつ英文で作成する。刷り上がり 1 段 (86 mm) あるいは 2 段 (178 mm) に合わせて印刷されるので、わかりやすい体裁を工夫すること。表の上部に Table 1, Table 2 などの表番号と簡潔な英文表題をつける。

1.8 図

図は、刷り上がり横幅が 1 段 (86 mm) あるいは 2 段 (178 mm) となるので、この大きさを考慮した図を作成すること (目盛り, 凡例, 添え字等, 字が小さくなりすぎないように注意すること)。用紙 1 ページに原則, 図 (Fig.) 一つを作成する。各図には, Fig. 1, Fig. 2 や, Scheme 1, Scheme 2 などの通し番号と, 著者名を記載する。写真は, 図 (Fig.) として取り扱う。顕微鏡写真などは, 写真中の適当な場所に, スケールバーを入れる。図等の表題と説明 (Figure caption) をまとめた英文リストを先頭に, 次のページからこのリスト順に図を並べること。

Electrochemistry 誌は電子ジャーナルであり, 図はカラー表示が可能である。

1.9 Supporting Information

論文内容を支持・補強するためのデータ (グラフ, 表, スキーム, 数式の誘導法, 画像など) を Supporting Information (SI) に掲載し, 論文とともにオンライン公開 (Open Access) することができる。SI は論文原稿とは別の 1 つの PDF ファイルとして, 論文原稿と同時に Web 投稿すること。

- A) SI の 1 ページ目には "Supporting Information" と明記し, 論文と同じ題目, 著者名, 所属, 連絡先著者 (1.4 参照) を記した表紙をつけること。
- B) 本文中に必要な不可欠な図表等は SI に含めないこと。
- C) SI にはページ番号を S1, S2, S3・・・のように, 下部中央に付ける。SI 中の図表番号は S1, S2, S3・・・とし (例: Fig. S1, Table S1, Scheme S1), 本文中で Fig. S1 in Supporting Information (SI), 2 度目からは Fig. S2 in SI のように引用すること。
- D) 本文の最後 (謝辞があればその前, なければ参考文献の前) に SI が附属している旨を以下のように記述すること:

Supporting Information: The Supporting Information is available on the website at DOI: xxxxxxxxxxxxxxxx.

- E) 論文の改訂時に必要があれば SI も改訂してよいが, 本文とは異なり変更点等は MS-Word の変更履歴の記録等で示さないこと (論文受理後, SI は編集されず, そのままアップロードされるためである)。

2. 各項目標記における注意点

基本的な表記法は、2012年1月発行のVol.80 No.1以降の既報論文を参照すること。

- 2.1 論文題名に副題がつく場合、主題名の後にピリオドを打ち、副題を続ける。一連の論文を同じ主題名で発表する場合、主題名の後にローマ数字で通し番号をつけて副題を続ける。「Study on ...」や「...に関する研究」のような題名を避ける。
- 2.2 著者名は、First name の第2字以降を小文字、Middle name はイニシャルとピリオド、FAMILY NAME はすべて大文字で書く。2名の著者は and でつなぎ、3名以上の場合最後の著者名をカンマと and でつなぐ。
- 2.3 異なる研究機関に所属する著者が含まれる場合、ローマ字の a, b, c を著者名の右肩と研究機関名の左肩につける。研究機関と現在所属する機関が異なる場合、ローマ字の a, b, c を著者名の右肩につけて、Present address : (現在:) として所属機関名と所在地を書く。
- 2.4 本文の区分けは、必要に応じて大見出しの下にポイントシステムによる記号を用いて、中見出し、小見出しなどを明瞭にする。例: 1, 1.1, 1.1.1
- 2.5 複雑な数式や化学構造式は、図として扱うのでわかりやすく体裁を整える。
- 2.6 本文および図表の表題・説明には、原則として化学式を使わないで化合物名で書く。化合物の命名は、原則として IUPAC 命名規則による。
参考: 日本化学会化合物命名小委員会, 化合物命名法: IUPAC 勧告に準拠, 日本化学会, IUPAC Nomenclature Books Series
(<http://old.iupac.org/publications/books/seriestitles/nomenclature.html>)
- 2.7 物理量に関する述語、記号、単位、数値等は IUPAC の規則にしたがう。
参考: I. Mills, T. Cvitas, K. Homann, N. Kallay, and K. Kuchitsu, Quantities, Unit and Symbols in Physical Chemistry, Blackwell Publications, Oxford (1988); Manual of Symbols and Terminology for Physicochemical Quantities and Units, *Pure Appl. Chem.*, **51**, 1 (1979). (翻訳: 関 集三, 松尾隆祐, 「物理・化学量と単位」に関する記号と術語の手引, 日本化学会), Appendix III-Electrochemical Nomenclature, *Pure Appl. Chem.*, **37**, 499 (1974) (翻訳: 電気化学, **48**, 46 (1980).)
- 2.8 単位は原則として国際単位系 (SI) を用いる。以下のものは SI 単位ではないが、当分の間本誌での使用を認める。その他の非 SI 単位を使わざるを得ないときには、その論文中の箇所に定義 (SI 単位への換算) を本文中に括弧を用いて、例えば (M = mol dm⁻³) のように示す。

ただし、時間の分 (min), 時間 (h), 日 (day), 平面角度の度 (°), 分 (′), 秒 (″) についての換算は不要。

angstrom: 1 Å = 10⁻¹⁰ m

ton: 1 t = 1 Mg = 10³ kg

liter: 1 L = 1 dm³ = 10⁻³ m³

atmosphere: 1 atm = 101325 Pa

torr: 1 Torr = 133.322 Pa

curie: 1 Ci = 3.7 × 10¹⁰ Bq = 3.7 × 10¹⁰ s⁻¹

kilowatt-hour: $1 \text{ kWh} = 3.6 \times 10^6 \text{ J}$

poise: $1 \text{ P} = 10^{-1} \text{ Pa s} = 10^{-1} \text{ kg m}^{-1}\text{s}^{-1}$

stokes: $1 \text{ St} = 10^{-4} \text{ m}^2\text{s}^{-1}$

electron-volt: $1 \text{ eV} = 1.60218 \times 10^{-19} \text{ J}$

- 2.9 電位の表記は，たとえば SCE 基準の電位は， $E = -0.24 \text{ V vs. SCE}$ のように書く．
- 2.10 数式および化学反応式には，通し番号を括弧でくくり右端におく．文中に出てくる分数式は， $a/b, (a + b)/(c + d)$ のように 1 行に書く．二重の上付き添字，二重の下付き添字は使用しない．

3. 和文論文作成の注意

- 3.1 本文は，明朝系 12 ポイントで約 30 行／頁で作成する．
- 3.2 表紙には，日本語の論文題名，著者名（姓名），研究機関名，所在地（郵便番号）と，それに対応する英語を併記する．
- 3.3 原則として常用漢字と現代仮名づかいによる口語体の書きことばを用いる．句点・読点は「.」と「,」を用いる．
- 3.4 化合物名のうち，簡単な日本語で慣用的に使用されているもの（例えば，酢酸，水酸化ナトリウム，ベンゼン）および文部科学省学術用語集化学編にある化合物は日本語で書く．
- 3.5 外国の人名，会社名などは英字つづりで書く．ただし，文部科学省学術用語集化学編にある周知の外国人名や術語は日本語で書く．[例] ネルンストの式，ファラデー定数
- 3.6 日本語で書かれた文献の引用は，ローマ字で表記する．ただし，年号の後に[in Japanese]をつける．
- 3.7 要旨，図表写真の表題，説明などはすべて英文で書く．
- 3.8 本文中に図表を引用するときは，Fig. 1, Fig. 2 および 3, Table 1, Table 2 および 3 などと書く．

4. 原稿の提出

4.1 電気化学会 Web 投稿システムによる投稿

Web 投稿システムの使用法の説明は，投稿システムの最初のページ (<http://www.editorialmanager.com/electrochemistry/>) に掲載されているので，参照されたい．

原稿は，投稿システム中原稿アップロードのページに記載されているファイルフォーマット（2017 年 6 月現在；アップロード可能なファイル形式は Word, Excel, PowerPoint, RTF, TXT, TIFF, GIF, JPEG, EPS, Postscript, PICT, PDF と掲載されている）で投稿が可能である．図については，図の番号，著者名をファイル中に記載しなくてもよい．原稿をアップロードした後，システムが自動生成した PDF（Portable Document Format）ファイルについて，原稿内容，特に，図の表記，順番が正しいことを確認すること．

また審査意見を元に原稿を再提出する際は、システム中の査読者への回答書欄に回答をわかりやすく記載すること。